

様式第3号(第12条関係)

会 議 録

会 議 の 名 称	平成26年度 第1回吉川市児童福祉審議会
開 催 日 時	平成26年5月29日(木) 午後6時00分から 午後8時45分まで
開 催 場 所	吉川市役所第2庁舎204会議室
出席委員(者)氏名	和泉広恵会長、田中公明委員、戸張精一委員、林美希委員、 小助川美穂委員、林桂委員、五十嵐修委員
欠席委員(者)氏名	長井圭子委員
担当課職員職氏名	健康福祉部 部長 鈴木昇 (あいさつまで出席) 健康福祉部 副部長兼保育幼稚園課長 戸張悦男 子育て支援課 課長 岡田なるみ 子育て支援課子育て支援係 係長 木村みのり 子育て支援課子育て支援係 主任 城取直樹 保育幼稚園課保育係 係長 渡辺剛 保育幼稚園課保育係 主事 阿部徹 保育幼稚園課子ども・子育て支援新制度係 主事 小川麻衣子
会議次第と会議の公開又は非公開の別	1 開 会 2 議 事 (1) 年間スケジュールについて (2) 計画骨子(案)について (3) 量の見込み・確保方策の考え方について (4) 子ども・子育て新制度に係る基準「骨子」案について (5) その他 3 閉 会 すべて公開
非公開の理由 (会議を非公開にした場合)	なし
傍聴者の数	0名
会議資料の名称	次第、配付資料一覧表、資料1、資料2、資料3-1~3-12、資料4、参考資料1、参考資料2、追加資料
会議録の作成方法	<input type="checkbox"/> 録音機器を使用した全文記録 <input checked="" type="checkbox"/> 録音機器を使用した要点記録 <input type="checkbox"/> 要点記録
会議録確認指定者	林美希委員、小助川美穂委員
その他の必要事項	

審議内容(発言者、発言内容、審議経過、決定事項等)	
事務局	<p>&lt;開会&gt; 開会の宣言</p> <p>&lt;事務局等挨拶など&gt; 新年度の異動に伴う事務局自己紹介、審議会成立の確認、健康福祉部長挨拶。 ※ 健康福祉部長については、所要のため退席。</p> <p>&lt;資料確認&gt; 配付資料の確認。</p>
事務局	<p>&lt;年間スケジュールについて説明&gt; <b>【関係資料】</b> 資料1「吉川市児童福祉審議会関係「(仮称)吉川市子ども・子育て支援事業計画」策定スケジュール予定表」 参考資料1「子ども・子育て新制度パンフレット「なるほどBOOK」」 (質疑応答) なし</p>
事務局	<p>&lt;計画骨子(案)について説明&gt; <b>【関係資料】</b> 資料2「(仮称)吉川市子ども・子育て支援事業計画骨子(案)」 (質疑応答)</p>
林美希委員	<p>保幼小連絡協議会は、どのような関係者で構成されている組織なのか。また、内容は何か。</p>
事務局	<p>事務局は教育委員会で、学校や保育園の先生などが集まり、</p>

<p>林美希委員</p>	<p>昨年度は2回開催したと聞いている。内容は、幼稚園等の施設を見学・交流したり、1年生に上がる前のお子さんについて、保育園・幼稚園からの申し送りによる情報提供などを行ったと聞いている。</p> <p>保育所に通所させている友人が多いのだが、よく「小1の壁」という言葉を聞く。話を聞くと不安な内容が多いので、この保幼小連絡協議会にお母さんたちの声が届いているのか心配になった。もっと現場の声が聞こえる場所であればよいと思う。</p>
<p>五十嵐委員</p>	<p>保幼小連絡協議会の連携はどうあるべきかという問題がある。小学校と保護者がそれぞれ何をどこまで求めているのかという整理も必要。</p>
<p>和泉会長</p>	<p>内容に踏み込んで実質的に機能し、市民に見える形の協議会になっていけば良いと思う。</p>
<p>五十嵐委員</p>	<p>年間スケジュールの話に戻るが、6月に幼稚園対象の県説明会が行われる。先日、5市1町の幼稚園の集まりに参加したが、国の会議に出席している園長と現場の園長との間で、理解度の差が著しいことがわかった。10人いたら2～3人がある程度理解していて、残り8人程は何かがある程度の理解。ただ、10月頃から幼稚園の募集が始まるが、様々な不安要素がある。親や幼稚園としては、新制度のどこにメリットがあるのかをこの数か月で判断できるのかという問題がある。また、市町村の中でも温度差があると思う。6月に広報が出されるようだが、そこで市民がどれだけ理解できるのか。その都度内容が変わらない制度であって欲しいという思いがある。</p>

和泉会長	<p>幼稚園の方も保護者の方も新制度でどうなるのか不安になっていると思うが、まだ未確定な部分が多いように感じる。できるだけわかりやすい形で新制度を伝え、不安を減らすようにしてもらいたい。</p>
林美希委員	<p>三郷のとある幼稚園が急に認定こども園になると発表し、現場の保護者がとても驚いているという話を聞いた。吉川ではないだろうが、そのような事がないようにしてもらいたい。</p>
五十嵐委員	<p>保護者のニーズに応えるため、幼稚園も保育所も一生懸命やっている。認定こども園として一本化する話も良いとは思いますが、幼稚園と保育所をお互い伸ばしていくというのも一つのやり方であると思う。幼稚園、保育所それぞれが様々な教育等の考え方を持っている。枝葉ばかりを見るのではなく、もっと根底をみてもらいたい。先行きが非常に心配である。</p>
和泉会長	<p>五十嵐委員のおっしゃるとおり、制度が大きく変わり、認定こども園の話が出てきている中で、保護者・幼稚園・保育所それぞれの立場からメリットや先行きが見えにくい状態になっていて不安を感じていると思う。情報の交通整理をしていただき、それぞれに必要な情報の提供をお願いしたい。</p>
事務局	<p>これまでの審議会でもお話しをさせていただいているが、幼稚園と保育所にはそれぞれ特色がある。市では、何が何でも認定こども園に移行してほしいとは考えていない。ただし、認定こども園のニーズがある中では、選択肢の1つとして認定こども園を考えていく必要がある。今後、新規などで認定こども園の設置要望等があった場合は、市として支援を考えていきたい。</p> <p>新制度については、制度設計が遅れている状況だが、国では</p>

	<p>平成27年4月から制度を開始すると言っている。新制度開始にあたり、平成27年の保育園・幼稚園の申し込みは10月・11月に行うため、それまでにはある程度の概略を市民の方へ説明していかなければならないと考えている。公定価格については、仮単価等が提示されたため、6月の県説明会実施後に各園等を訪問して説明していく予定。その中で判断をしていただきたい。</p>
林美希委員	<p>認定こども園については、以前の審議会で参入があれば支援したいと答えていたと思うが、市で積極的に建てようと考えているのか。</p>
事務局	<p>現時点では、市が設置して運営することは考えていないが、市が設置して民間が運営するという選択肢はまだ残っていると考える。基本は民間参入を推奨する立場である。</p>
事務局	<p><b>&lt;量の見込み・確保方策の考え方について説明&gt;</b></p> <p><b>【関係資料】</b></p> <p>資料3-1「吉川市教育・保育提供区域図」</p> <p>資料3-2「中学校区域別人口推計算出方法」</p> <p>資料3-3「幼稚園、保育所（1号～3号認定）量の見込み・確保内容掲載表」</p> <p>資料3-4「幼稚園、保育所、家庭保育室、待機児童の現状及び算出方法」</p> <p>資料3-5「地域子ども・子育て支援事業に係る量の見込み・確保内容掲載表」【差し替えあり】</p> <p>資料3-6「時間外保育（延長保育）実績及び算出方法」【差し替えあり】</p> <p>資料3-7「学童保育室の現状及び算出方法」【差し替えあり】</p>

	<p>り】</p> <p>資料3-8「子育て支援拠点事業利用実績及び算出方法」</p> <p>資料3-9「ファミリー・サポート・センター事業、ショートステイ事業実績及び算出方法」</p> <p>資料3-10「病児・病後児保育事業実績及び算出方法」</p> <p>資料3-11「緊急サポート事業実績及び算出方法」</p> <p>資料3-12「妊婦健診、乳幼児家庭全戸訪問事業実績及び算出方法」【差し替えあり】</p> <p><b>追加資料「一時預かり事業に関する資料」【当日配付】</b></p> <p>(質疑応答)</p> <p>小助川委員 入所待ち児童数について、理由が「特定の園のみ希望」及び「認可外保育室入所」の者は含めないとしてしまうと、本当の入所待ち児童数が出てこないと考えるがいかがか。その数字を含めていかないと実態が見えてこないと思う。また、その数字を含めたものがニーズ調査の意味だったと思う。</p> <p>事務局 認可外保育施設について、新制度に移行した場合、地域型保育という認可に近い施設になる。現状は認可外に入って認可を待っている方が多くいると思うが、新制度を見越して認可外に入っている方は今回カウントしていない。</p> <p>林美希委員 特定の園のみ希望を含めていないとあるが、母親として予想してみると、朝の時間に子どもを送迎することは、距離が長いほど大変なものとなる。また、子どもが複数いてそれぞれ通っている場所が違くとさらに大変である。そういう理由を予想してみると、母親としてはとても切実な思いで入所待ちをしていると思う。</p> <p>最近、新聞等を見たのだが、千葉市が待機児童0人となった理由として、細かい要望に対して、電話や直接対応で一つ一つ</p>
--	---

	<p>応えていった結果であると記載されていた。吉川市も子育て支援だけでなく満足度を高めるためには、そのような対応が必要ではないだろうか。今回いくつかの理由を除外したということは、あまり嬉しくない気持ちである。</p>
和泉会長	<p>保護者側の思いと資料の注釈の考え方に少しズレがあるように思うがいかがか。</p>
事務局	<p>入所待ち児童数の考え方については、委員の皆様の見解を踏まえ、再考させていただきたい。</p>
小助川委員	<p>放課後児童クラブの数字について、改めて驚いたことは、新たに追加される9歳から11歳の人数の多さである。今までの小さい子どもたちと同規模数の大きい子どもたちが入ってくるとなれば、単なる施設整備だけではない複雑な問題を抱えることになると思う。</p> <p>また、そもそもの前提論として、この審議会に教育委員会の担当部署が入ることは不可欠だと思う。本日、この場にはいないが、こちらの提案や声はかなり限定されてしまうと思う。教育委員会との話し合いの場が欲しいと一保護者としては思う。</p>
事務局	<p>今回は県内の類似団体の数字を参考としているが、自治体によって条件が変わってくる。低学年と同じ条件を高学年に適用している自治体もあれば、低学年を入れたうえで、さらに空きがあった場合に高学年を入れている自治体もある。今回の資料については、低学年と同じ条件を想定して数字を算出している。</p> <p>なお、今回提示した量の見込みについては、もう一度数字を算出したい。特に東中学校区域については、保護者や祖父母と同居しているケースが多いため、学童保育室の利用が元々低い</p>

<p>林桂委員</p>	<p>地域である。そのため、もう一度それらの事情を加味して数字を出し直したい。</p> <p>今回、放課後児童クラブについては、学童保育室で数字を算出しているが、放課後事業としては、厚労省が行っている放課後児童クラブと文科省が行っている放課後子供教室という2種類の事業がある。なお、放課後子供教室については、今後、教育委員会と連携しながら協議していきたい。</p> <p><b>【補足】放課後子供教室について</b></p> <p>平成19年度に文部科学省が創設した事業。本事業は、小学校の余裕教室等を活用し、地域の多様な方々の参画を得て、子供たちとともに学ぶ学習やスポーツ・文化活動等の取組みを推進するもの。</p> <p>私の子どもは小学校4年生になるが、6時間授業やクラブ活動などが始まるため、実際は学童保育室を利用しないと思う。私が仕事をして帰ってくる間も、普段は公園などに遊びにいらしてしまうため、何とかなるのではないかなと思う。実際のところは、高学年になると学童保育室には行きたくないと思う子どもは多いのではないかな。個人的には、文部科学省の放課後子供教室をより促進していった方が良く思う。9歳から11歳の学童保育室は、完全に保育をしてもらいたいとは思わないので、利用は少ないと思う。</p> <p>また、例えば栄学童保育室などは児童が既に一杯であるため、高学年の受け入れは出来ないと思う。小学校によって、受け入れができる、できないとなってしまうと、保護者の不満も出てしまう。</p> <p>なお、保護者から、第1子を保育所に預けて第2子を妊娠し、産休に入る時、会社に申請書類を書いてもらおうと、そのまま第1子を預けることができるかと聞いたがそうなのか。産休中で仕</p>
-------------	--



	<p>事をしていない人は預けることができるのか。</p>
戸張委員	<p>年齢によって違ってくるのではないか。なお、入所待ち児童については、育児休業を伸ばすために不承諾を希望する人もいるので、資料のような考え方が出てくるのではないか。</p>
事務局	<p>育児休業を認められている一年間については、第1子が入っている場合は、その後も続けて利用してもらうようにしている。</p>
五十嵐委員	<p>放課後子供教室について、もう少し詳しく確認したい。</p>
事務局	<p>先進事例を見ると、学校の教室や校庭を使って実習をしている場合が多い。指導者は地域ボランティアや先生。学校でやっているケースが多い。</p>
林美希委員	<p>教育委員会は市役所と独立しているイメージがある。放課後子供教室などはこの計画では反映されていないので、もっと積極的に絡んでもいいのではないか。会議に出席し、話を聞いてもらいたいと思う。</p>
小助川委員	<p>ニーズ調査における2号、3号認定の数及び学童保育室の人数と今日の資料の差に大きな隔たりがあったとわかった。数としては500近い差があったが、この差を事務局ではどう捉えているのかお聞きしたい。私としては、ニーズ調査の回答において、本当は子どもを預けて働きたいけれども何らかの理由でそれが適わない。けれども希望だから丸はつけたということなのだと思っている。</p>
事務局	<p>ニーズ調査ではアンケートの回答方法などもあり、積極的に</p>

	<p>丸をつけていただいたのだと解釈している。また、複数回答の設問もあったため、数字が大きくなってしまったと考える。</p> <p>ただし、ニーズ調査は実際の声が反映された貴重な資料であるため、結果を無視するわけではない。今回、様々な御意見を頂戴したので、持ち帰ったうえで現実の数字に将来の推計を加味した形で精度を高めていきたい。</p>
和泉会長	<p>ニーズ調査の数字すべてが現実ではないが、ニーズ調査を利用しない場合は、その理由を個別ではなくても大きな枠組みの中で説明していく必要がある。</p>
小助川委員	<p>参考資料1のパンフレットについて、内容で一番驚いたのが14頁の3つ目のQ&amp;Aである。「各園において実費負担や上乗せ利用料が生じる場合がある」と書いてあるが、これを読んでも、負担額によっては自分が働くか働かないかの重大な決断が出てくると思う。また、幼稚園や保育園の希望状況が変わる可能性があると考えられる。これをどのようなスケジュールで保護者一人一人に伝えていくのか。</p>
事務局	<p>資料1の条例関係の部分をご覧いただきたい。本日の会議の中で9月議会に上程する基準等について説明させていただく。利用者の利用料について、ある程度の金額を提示した中で10月にパブリック・コメントを実施し、12月議会に上程していきたいと考えている。</p> <p>実際には、この時期に正確な金額が提示できるかどうかは定かではない。国が示しているのは上限額であるが、その範囲の中で市町村が独自に設定するものである。保育料についても上限の範囲の中で市町村が設定することになる。保育料との兼ね合いも見ながら、これから検討していきたい。</p>

事務局	<p>&lt;子ども・子育て新制度に係る基準「骨子」案について説明&gt;</p> <p><b>【関係資料】</b></p> <p><b>資料4「子ども・子育て新制度に係る基準「骨子」案</b></p> <p>(質疑応答)</p>
五十嵐委員	<p>国としては、待機児童を減らすために色々と工夫していると思うが、それが目的ではない。子育ての教育と保育をどのようにやるのかを見据えて考えていかなければいけないと思う。</p>
和泉会長	<p>支援制度が変わる中で、待機児童をなくすことが目標になってしまうと、何かを見失ってしまうように思う。</p> <p><b>&lt;その他&gt;</b></p> <p>なし。</p>
和泉会長	<p>計画骨子について、妊娠・出産の部分も重要だと思うので、どこかに一言入ると良いと思う。例えば、資料2の3番にある計画の基本理念と基本的な方向性の(2)の文中に「妊娠、出産、子育てがしやすいような」という文言を入れても良いと思う。</p> <p>その他、御意見がなければ議事は以上となる。</p> <p>&lt;会議録署名人の指名&gt;</p> <p>林美希委員と小助川委員を指名。委員了承。</p>
事務局	<p>&lt;事務局からの連絡事項&gt;</p> <p><b>参考資料2「平成26年度第2回吉川市児童福祉審議会日程(案)」</b></p> <p>次回の内容は、次の3点とする。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・計画素案について</li> </ul>

	<ul style="list-style-type: none"><li>・量の見込みの考え方等について</li><li>・関係条例について</li></ul> <p>次回の審議会は、日程調整の結果、平成26年7月30日(水)午後6時から市役所第二庁舎204会議室に決定。</p> <p>&lt;閉会&gt;</p>
<p>以上、会議の内容に相違ないことを証するため、ここに署名する。</p> <p>平成26年7月4日</p> <p>署名委員 (林美希 自署)                      署名委員 (小助川美穂 自署)</p>	